



# 青南だより

令和6年5月号  
港区立青南幼稚園  
園長 石川 典子

園庭のイチゴは実をつけ始め、ジャガイモの葉が日に日に青々と茂っています。こいのぼりが勢いよく泳ぎ、保育室からは「♪やねよりたかい こいのぼり♪」と元気な歌声が聴こえてきます。

入園・進級から3週間が経ち、どの学年の園児も、新しい環境に少しずつ慣れてきています。今月は、子どもの日会や親子遠足などが楽しみです。



青南幼稚園はESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んでいます。

## 身近な自然を生かした環境教育の推進

- ・豊かな自然環境(ビオトープ)を活用した多様な体験を通した学びの充実
- ・SDGsにつながる取組の充実(親子栽培活動、リサイクル活動、土工場など)

(港区立青南幼稚園 経営方針 令和6年度取組の重点より)

世界は2030年までに、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、SDGsという17の目標を達成することを目指しています。

SDGs 17の目標の中でも15(陸上資源)「陸の豊かさを守ろう」の目標を重点とし、ESD(持続可能な開発のための教育)を充実させています。生活の基本的態度や価値が形成される幼児期からの取組が、新たな価値観をもつ未来の担い手を育てることにつながっていきます。

本園では、発達段階や季節に合わせて、生き物との触れ合い、植物栽培や収穫、土づくりなど、広い園庭の自然物を活用し、自然体験や親子栽培活動などを工夫しています。

幼児が日々の遊びや生活の中で自然と関わり、主体的に「体験」し、「発見」し、「学ぶ」体験を保障し、幼児の【気づき】を促します。

### 【自然体験からの気づき】

- 生命の大切さや不思議さに気付く ○自然の大きさ・美しさ・不思議さなどに気付く
- 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く

### 【社会体験からの気づき】

- 生活の中で環境やその変化に気付く ○資源を大切にしようとすることに気付く

ESD(持続可能な開発のための教育)を通して、幼児が身近な環境に興味や関心をもつことを大切にし、自らよりよい生活をつくっていかうとする意識や自然を愛する気持ち、命あるものをいとおしむ気持ち(心の根っこ)を育みます。

